

1

1 羊

2 流れ

3 岸

4 整列

5 教員

6 明暗

2

1 A タ

B ジ

C プ

D ル

2 反対

3

7 I 楽

II 酪農家

8 エ

9 リレー

5 話を

6 I ウ

II エ

III アイ

3 ② ウ

③ エ

④ ア

4 大島の牧草

3

1 (記述題)

2 A か

B や

C ペ

3 I ウ

II ア

III イ

4 機能性

5 I 動植

II もの

III 小型

IV 食料

6 複輪

7 コル

8 I 2

II 1

1 ゴキブリは絶滅してもいいかどうか

(同意可)

配点	
1・2・3	各2点×13=26点
3	6点
その他	各4点×17=68点
〈計〉100点	

- 1 「羊」と「半」の区別をしっかりとつけておこう。
- 2 「流」は四画目から七画目の形をはっきり書くようにしよう。
- 3 「岸」の中は「千」ではなく「干」である。
- 4 「整」の「束」を「東」としないように気をつけて書こう。また「列」を「例」としないように気をつけよう。
- 5 「教」の右の部分は三画ではなく四画である。漢字は正しい画数で書くように心がけよう。
- 6 「明暗」は「明るいことと暗いこと」。転じて、「成功と失敗」「幸と不幸」など「物事の明るい面と暗い面」を表す。

2

- 1 外来語を普段の生活の中で使うことは少ないかもしれない。しかし、例えば日々の勉強や読書の中で、意味のわからないことが出てきた時にそれをそのままにはしないことが大切である。
- 2 「俺は翔がやりたいようにやればいいと思う」「こないだと全然違うこと言ってるのは自覚ある」というところから、両親だけでなく兄である「俺」も、翔が酪農家になることを反対していたことがわかる。
- 3 どれも翔が話している様子をくわしくしていることばである。それぞれの場面の翔の様子をイメージすることが大切である。「牧場」とだけ答えている、「付け加える」ように言っている、「もう少し恥ずかしくない言葉を探していたのかもしれない」が「上手く見つからなかった」ということから、それぞれ答えが決まっていこう。
- 4 線④より前をさがしていくのだが、この「それ」は翔が言っているのだから、俺が頭の中で考えていることは指し示せないということに気づいてほしい。「翔は、酪農家になりたいのか」という「俺」の発言から「俺は好きでさ」という翔の発言にさかのぼってさがそう。

- 5 ここより前にある「一度しゃべりだすと、翔はダムが決壊したみたいになしゃべり続けた」ということばが、線⑤とほとんど同じ意味なので、ここと結びつけて考えよう。

- 6 「自分」ということばが出てきただけで、安易にIを「俺」や「翔」と答えてはいけない。影響を与えているのは「自分」で、影響を受けているのが「誰か」である。翔が酪農家になりたいと思ったことに影響を与えたのは「塚本さん」だとわかるだろう。そして、「俺」としての空斗さんが、翔にとっての塚本さんということばから「俺」と「空斗さん」の関係も想像できるだろう。

- 7 線⑦の直後の「生半可な覚悟じゃない」「信じてみよう」が「翔がやりたいようにやればいいと思う」と同じ「俺」の気持ちを表しているイメージできただろうか。そうすると線⑤の前後の翔のことばが答えの手がかりになる。翔はただあこがれだけで酪農家になりたいと言っているわけではなく、「簡単」「楽」ではないとわかっていながらも、それでも酪農家になりたいと言っているのである。

- 8 直前の「俺」のことばから、叩いてはいるが、励ますつもりで叩いているのがわかるだろう。

- 9 なぜ文章のこの範囲が出題されているのかということを知ることが、国語の勉強をするうえでは常に意識しよう。必要だからこそその範囲が出題されているのである。線⑩の発言が翔のものであることや、本文の一行目に「陸上競技大会」、そのあとに「バトンパス」「リレー」とあることから、「俺」が今から何をしに行くかを判断しよう。

3

- 1 線①の直前の行の「人間が不快・不利益と思う生物なら、絶滅してもいいのでしょうか？」を指しているが、このまま書くのではなく、線①をふくむ一文から「ゴキブリ」についての判断だとわかるので、「人間が不快・不利益と思う生物」を「ゴキブリ」と言いかえてまとめよう。

- 2 A「やつかい者」とは、他人に迷惑をかける人。B「むやみ」とは、結果などを考えないで物事を行うさま。C「しっぺ返し」とは、仕返しのこと。

- 3 (I)の直前の問いかけの一文から、はじめはウになることがわかる。「死骸や排せつ物が分解されない」↓「栄養が提供されないので土が貧しくなる」↓「植物が育ちにくくなる」↓「草食動物が減る」↓「肉食動物が減る」…という流れである。

- 4 ②をふくむ一文から、「生態系内の物質とエネルギーの循環の効率」と「生態系全体の②」が大きくかわっていることが読み取れる。本文のここより前で『生態系の機能がエネルギーや物質が効率よく循環している状態のことです』と書かれていた。また、②の次の段落の、「すえ置きになったお金」との重ね合わせから考えることもできる。

- 5 線③をふくむ一文のはじめが「このように」となっているため、ここまでの内容から考えよう。線③の二行前の「分解者であり、食料でもあるゴキブリ」が、「自然界におけるゴキブリの役割」なので、同意表現を指定の字数に合わせてさがそう。

- 6 本文から、「生態系」はお互いにかかわりを持ち、影響を与え合うものであることがわかるので、そのイメージに合うことばを「本文中のここよりあとから」さがそう。

- 7 「ここよりあと」という指定はあるが、それがなかったとしても⑤をふくむ一文が「このゴキブリの例に内在する問題の本質は」からはじまっているので、ゴキブリの例が書かれていた本文のここより前ではなく、ここよりあとに書かれているのではないかという見当をつけてほしい。「自然を都合のいいように⑤したい」という人間のエゴ」という部分が、その次の「人類は」からはじまる一文と対応している。

- 8 I 線④の次の一文に「そもそも人間が生態系を完全に理解することは不可能なのです」と書かれている。

- II 本文の最後から二段落めに「かつて日本にもいたオオカミを減らしたことは、人間に良い結果を生んだでしょうか？」とあるが、これは良い結果を生んだかどうかを読者に聞きたいのではなく、筆者が自分の判断を強調するために、その判断とは反対の内容を疑問の形で述べる言い方(反語)である。論説文でよく使われる方法なので覚えておこう。以上